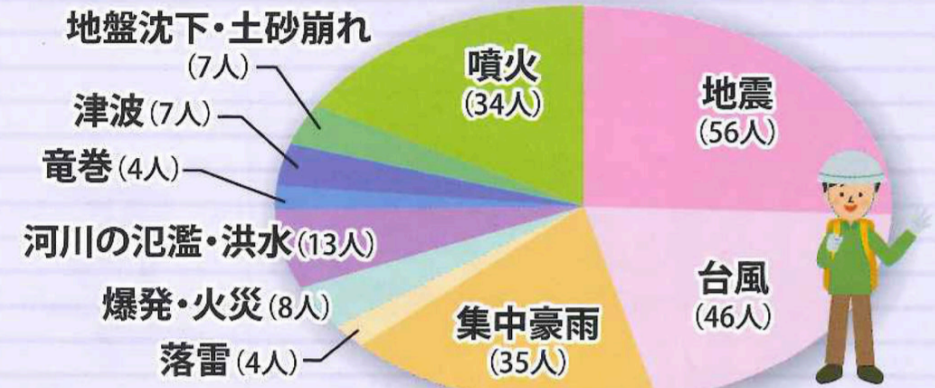


# 防災意識アンケート

昨今、阪神淡路大震災や東日本大震災を受け、「防災」の必要性が訴えられています。学校においては、学校の安全を確保するため、その役割も過大なものとなっています。災害時には避難場所となり、通常時には通学路を含めた「防犯・防災」の取り組みを担っています。今回は防災についてどのような意識を持っているのか把握することを目的としたアンケート調査を実施しました。アンケート結果を踏まえ、今後の防災に役立てていきたいと考えています。

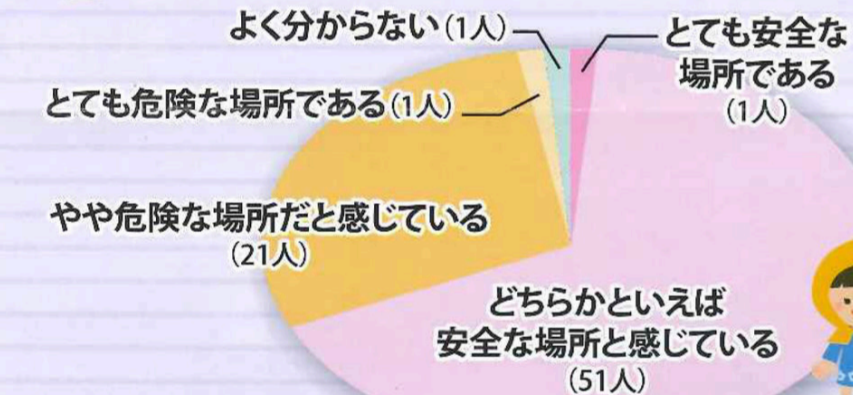
回収率…80%(76/95) ※配布数:児童生徒戸数+職員

## Q1 「身近な危険」と強く感じている災害は何ですか？ ※3つまで可



一番多いのは、地震。次に直接影響を受けやすい地域にあることもあり、台風。桜島や口永部島こともあり、噴火が上位にきています。

## Q2 自宅の地域は安全な場所だと思いますか？



### どちらかといえば安全な場所だという、その理由とは…

- 8.6災害時でも大丈夫だと聞いているから
- 阪神大震災後に建てられて大丈夫だと聞いているから
- 近所に顔見知りが多く、声を掛け合えるから
- ハザードマップから外れている
- 危険と思うところがない
- 周りに崩れそうな山がない
- マンションで高さがあるから

### やや危険な場所だと感じている、その理由とは…

- 河川が近いから
- 降灰の影響を受けやすいため
- 8.6災害で床上浸水を経験したから
- 高台の団地だが、集中豪雨による土砂崩れ
- 海が近い
- 自宅が川のそば、低地だから
- 家の裏が斜面になっている
- 近くの川が雨量が多くて水位があがって危ないときがある
- 道幅が狭く家屋の倒壊で避難が困難になる

## Q3 災害が起きた場合、家族で集合場所や連絡方法を決めていますか？

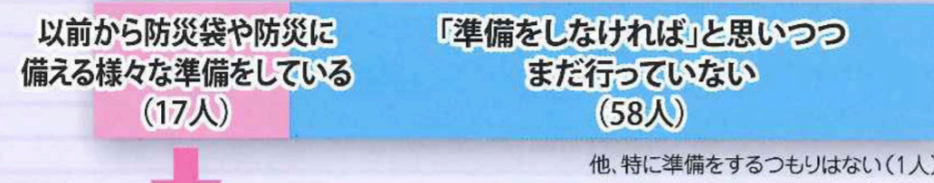


自宅が安全な場所だと感じている方が多いためか、決めていない家庭が多いです。

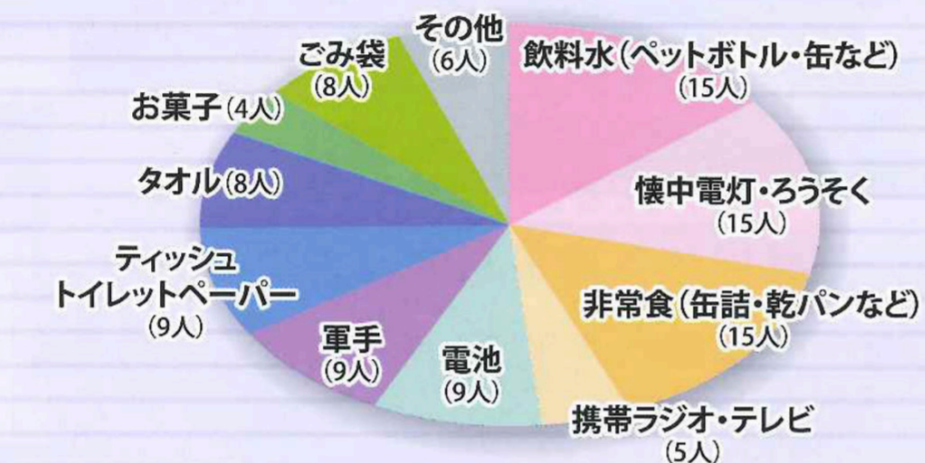
### 決めている場所や方法とは…

- 近所の福祉館(障害のある方がいる家庭は福祉館へと回覧板で連絡があった)
- 頼る人を決めて→電話番号を言える→学校に行く
- 地域の小学校体育館
- 携帯電話の災害時伝言板
- 兄弟児に関しては決めているが、本人には行動のみ決めている
- とりあえず市立病院
- 近くの公園

## Q4 災害に対するの備蓄をしていますか？



「以前から防災袋や防災に備える様々な準備をしている」と答えた方にお尋ねします。具体的に準備はどのような物ですか？

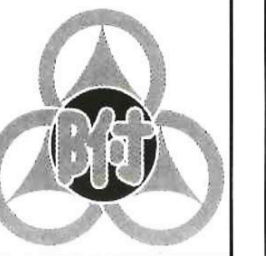


## Q5 過去の災害で学んだことや今後の災害で困りそうなことは何ですか？

- 衣食住すべてにおいて困りそう
- 障害のある子どもたちが一般の方と一緒に過ごすことは大変だろうと思うので、本校などが福祉避難所として活用されるような取組があってもよいと思う
- 早めに避難すること、食料品や着替えなど荷物の持ち出し
- 天気予報をみて危険と思ったら無理に登校しない
- 避難のとき子どもがパニックになりそうで心配(環境の変化に弱い)
- 離ればなれになった時の連絡
- SOSカードのようなものがあれば
- 家族との連絡方法などが困りそう
- ろうそくやカセットコンロは必要
- 自閉症の子どもが避難所で周囲に迷惑を掛けるので、施設に預けざるを得なかったという話をテレビで見て不安になった
- 支援学校の子供達がどんな様子だったのか特別なサポートがあったのか知りたい
- 避難場所や避難経路について日頃から家族で話しあう
- 大丈夫という気持ちは捨てて安全な場所に逃げることを、備えておくことが大事
- 必ずしも避難場所が安全ではないと思う
- 水道が使えなくて風呂にも入れなくて大変
- 他

## 防災アンケートを通して感じたこと

知的障害、発達障害のある子どもたちは、1人で通学、外出しているとき、あるいは自宅で留守番をしているときなどに、予期せぬ大きな地震や災害に直面すれば混乱することが考えられます。とっさの判断がとれない子どもが多いことが想像できるので、周りにいる大人に気付いてもらい、助けてほしい、支えてほしいというところがあります。災害時に障害のある子どもたちをどう守り、どう支援できるのか、そのような思いや不安を私たちは先延ばしにせず、今だからこそ家庭で、学校あるいはPTAで備えをして、それでも解決できないことを地域や行政の皆さんにお願いしていくことが大事だと感じました。



# 若草

<発行>

鹿児島大学教育学部  
附属特別支援学校  
PTA広報渉外部



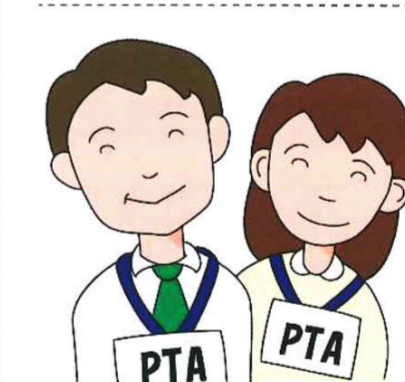
## 力持ちの附特PTA



今年、PTA会長に就任しました。もつと相応しい方がたくさんいらっしゃる中、私でしつかり務まるのが不安でいっぱいでした。そのような気持ちで参加した歓迎会で、「附属特別支援学校のPTAの戸数は六十戸、先生方を入れても約百人で、わずかな人数です。私一人では、百kgの荷物を持つことはできません。十人で十kgずつ持つことはできるでしょう。でも、歩き続けることはできません。



平成三年から平成十二年まで本校にお世話になりました。なんと十四年ぶりにまたお世話になることになりました。どうぞよろしくお願います。校内を回りますと、当時のことがいろいろと思いつき、懐かしい気持ちでいっぱいになると共に、当時広く感じていた職員室が狭く感じたりなど印象の違い



もあり、変な？気持ちにもなっています。校舎や校庭などは当然変わっていませんが(老朽化、経年劣化は仕方ない?)、学校の雰囲気は当然違いますし、自分の年齢や経験などの違いから受ける印象が随分違うところに改めて驚いているところです。先生方には、「昔は(こうだった)」と言ってしまうのですが、新たな歴史を刻みながら頑張っている子どもたちや先生方に大変失礼だと後で反省しています。昔を振り返りながら良き伝統を引き継ぎ、更に発展していければいいなと思います。

## PTA歓迎会

四月二十四日、アイバンポートホテルにおいて、PTA歓迎会が開催されました。今年には教頭先生をはじめ、助っ人の先生方によるダンスで会場は大盛り上がり、全員総立ちで踊りました。新しく入られた先生方と保護者によるゲームなども行われ、親睦を図ることができました。



## 平成27年度の執行部・専門部



**執行部**

四月二十四日、アイバンポートホテルにおいて、PTA歓迎会が開催されました。今年には教頭先生をはじめ、助っ人の先生方によるダンスで会場は大盛り上がり、全員総立ちで踊りました。新しく入られた先生方と保護者によるゲームなども行われ、親睦を図ることができました。

(庶務) 濱崎静香 (副会長) 西田徳浩 (会長) 時任文代  
(会計) 瀬畑洋子 (庶務) 今吉春美 (庶務) 吉田美由紀

**専門部 新体制スタート!!**

(広報渉外部長) 杉山和代 (総務部長) 大瀬奈香 (保健事業部長) 濱田由里